

配線方法

本書では、流量計と積算計の接続における配線方法について説明します。本書を参考にする前に、必ず流量計および積算計のマニュアルをお読みください。

【概要】

積算計は複数の流量計から流量信号を受け取り、積算流量を表示します。

各流量計の信号は検出部から表示部を経由し、PS ケーブルを通じて積算計に伝送されます。

この際、信号同士が干渉し合うことでノイズが発生する可能性があります。

【終端抵抗の必要性】

ノイズの影響を防止するため、信号線の両端には終端抵抗を配置することを推奨します。

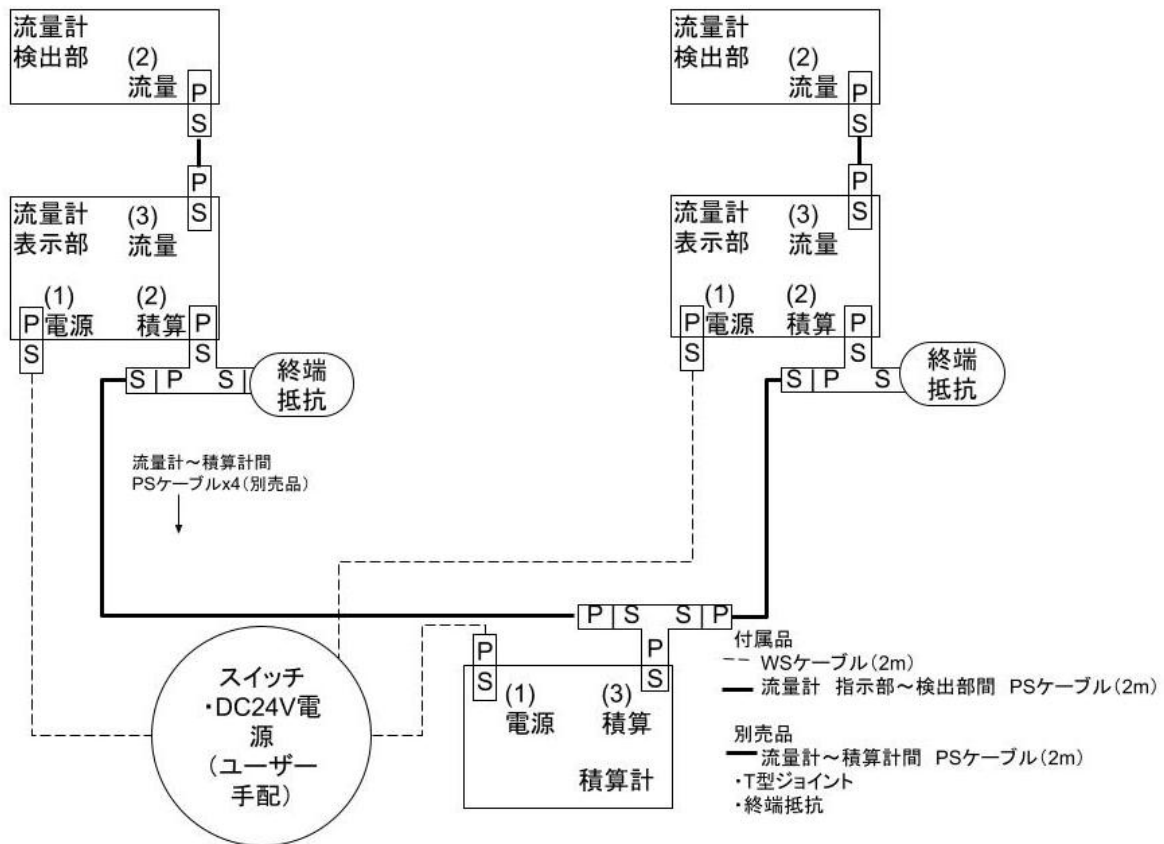
終端抵抗を設置することで、信号反射による波形の乱れを防ぎ、正確な信号伝送を実現します。

これにより、積算計の表示が安定し、誤表示や誤作動を防止できます。

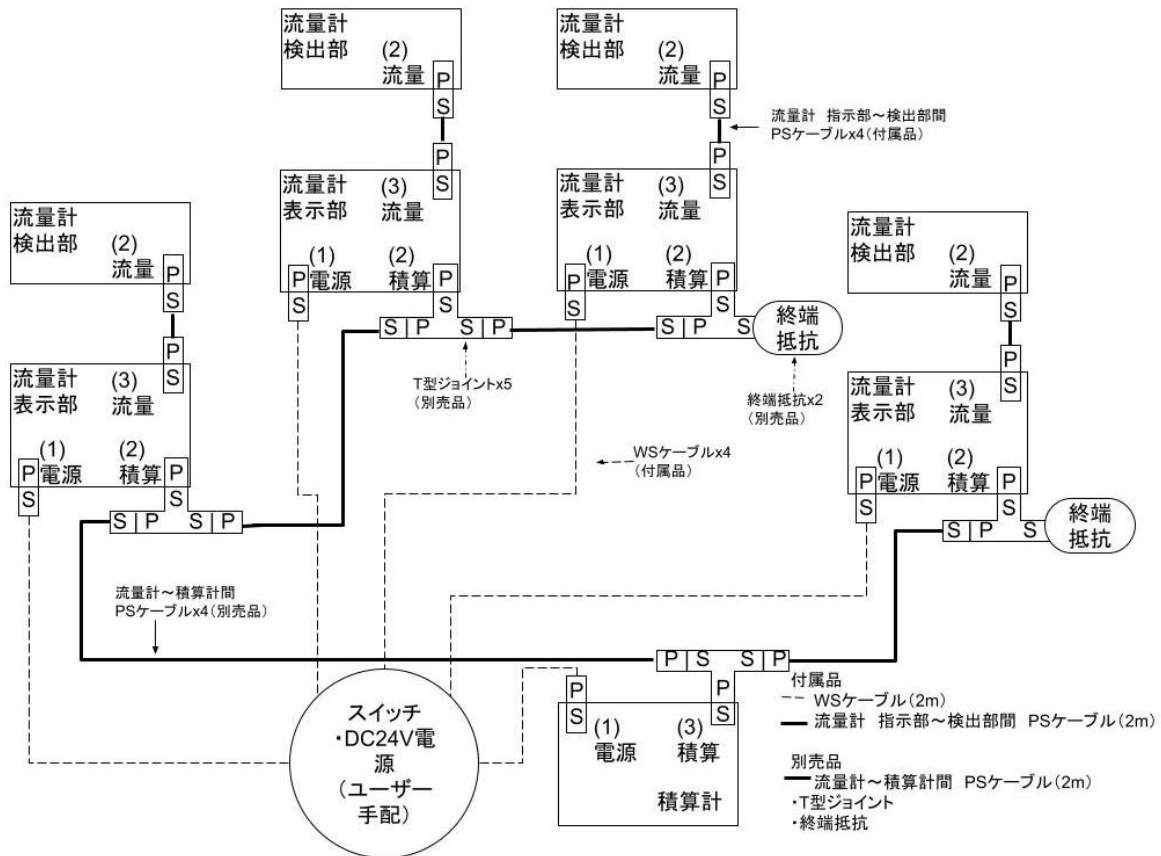
【配線例】

下記に代表的な配線例を示します。

・ 流量計 2 台 + 積算計 1 台の場合



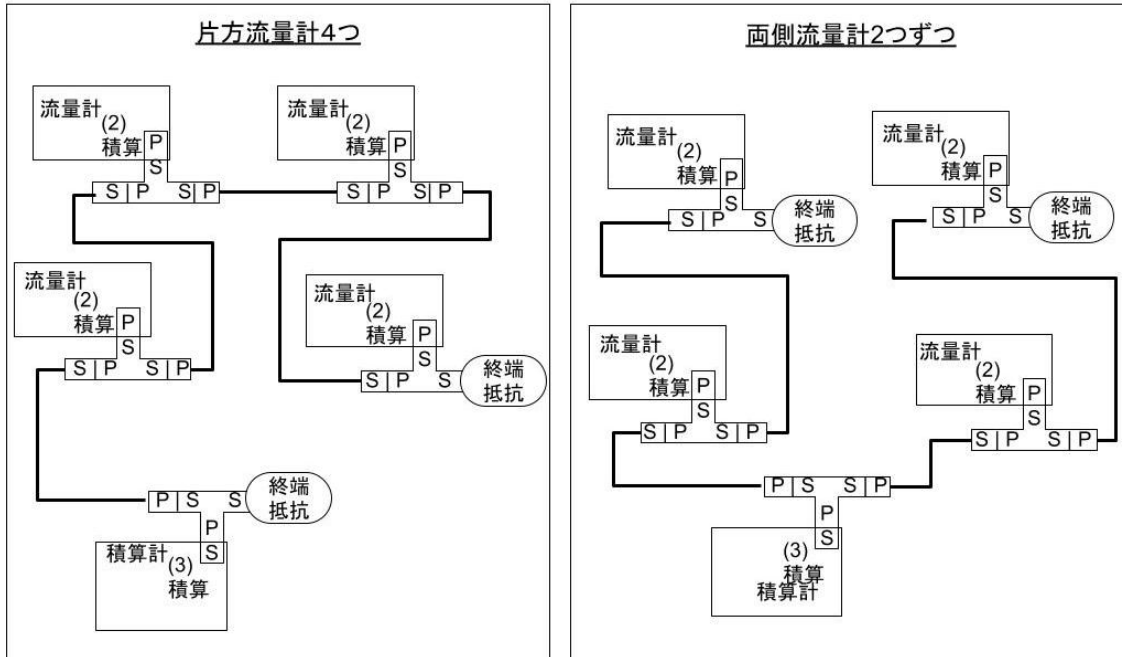
・ 流量計 4 台 + 積算計 1 台の場合



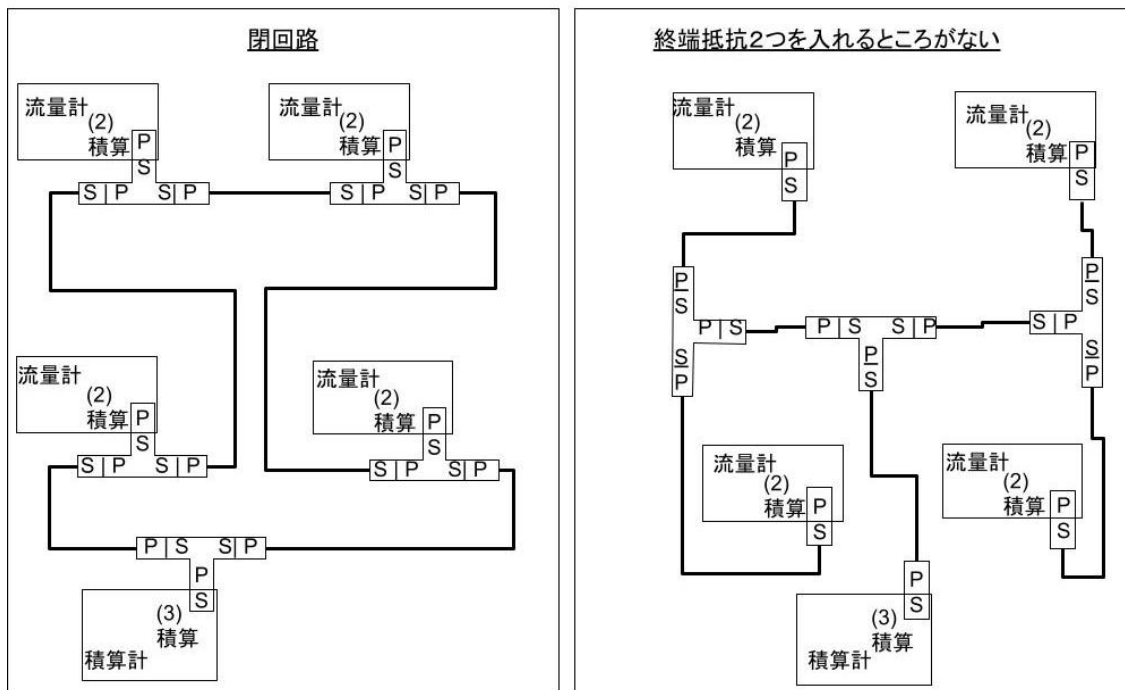
【注意事項】

- ・ 接続距離はできるだけ短くしてください。
- ・ 不要なケーブルや接続端子の使用は避けてください。
- ・ 以下に示す配線パターンは推奨例であり、実際の環境に応じて適切な方法を選択してください。

OK例
(積算計関連ケーブル・部分以外略)



NG例
(積算計関連ケーブル・部分以外略)



【改訂履歴】

版数	発行日	改訂履歴
Ver.1.0	2025.09.02	配線方法 V.1.0

本書に言及していない事項について、または不明な点がある場合は、流量計・積算計のマニュアルに従うか、弊社までお問い合わせください。

以上